

奈良教育大学同窓会会報

まほろば

第27号



目次

○会長挨拶、平成26年度活動方針	2
○学長挨拶	3
○平成25年度同窓会一般会計決算書	4
○平成25年度会務報告	5
○同窓会だより (1) 同窓会総会参加記	7
(2) 同期会	7
(3) 百姓記	8
○研修会だより (1) 東吉野への研修会	10
(2) 一日親睦研修会に参加して	11
○第14回公開文化講演会のご案内、表紙の絵について	11
○事務局だより	12

2015年
同窓会総会のご案内

■と き

平成27年5月17日(第3日曜日)
午前10時から

■と ころ

奈良教育大学 山田ホール 他

○出席者は、準備の都合上、
5月8日(金)までに事務局へ
お申込みください。

❖ 魅力ある同窓会を目指して ❖ 会長 中 谷 要



奈良教育大学同窓会は、120年を超える永い歴史を有する誇りある同窓会です。この度、図らずも会長という大役を仰せつかることになりました。しかし、ご指名いただいた以上、

本会の充実発展のために微力を尽くしたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

さて、本同窓会は組織・資力・若年会員数の減少等々において、時代の推移に伴う様々な事象が浮かび上がってきているのではないかと考えています。

その一端を述べてみますと、先ず、「会員相互の触れ合いを大切にして、親睦を深める」ためにも、会員の皆様が積極的に参加してくださる同窓会としての運営強化を図る必要があるのではないかと思います。現在5分野の事業活動委員会において、それぞれの事業推進のために努力していただいています。今後は、活動委員会相互の連携を密にし、触れ合いと親睦につなげることができればと思っています。

次に、「学び合い、語り合う場を設定し、互いに教養を高める」ためにも、支

会活動の活性化を図る取り組みに協力していきたいと思っています。それぞれの地域において気楽に参加できる同窓会の場を設定していただき、温かい触れ合いのある充実した支会に深めていくことを考えていただければ有難いと思っています。

更に、現在続いている事業を一層推進していくためにも同期同窓会の運営と強化を工夫していくことが大切ではないかと思っています。会報「まほろば」には同窓会の活動や行事、同期同窓会員の様子など掲載されていますが、会員の動静を具体的に把握していただくためにも、同期同窓会の活性化をお願いしたいと思っています。また、1日親睦見学会や公開文化講演会の開催に際して、一人でも多くの参加者を募るためにも大きな効果が期待できるのではないかと思います。

いずれにしても、大学本部との連携は不可欠です。今まで努力を積み重ねてくださった先輩諸氏の教訓を生かし、教職をめざして勉学に励む学生諸君にも、同窓会の活動が見えるものとなるよう、大学との連携強化に力を入れて参りたいと思っています。

以上、ご支援賜りますようお願いし、ご挨拶にかえさせていただきます。

平成26年度 活動方針

本大学は、国立大学法人奈良教育大学として、中期目標期間10年を経過し、第2期へ更なる発展を目指して邁進されている。同窓会としては、本来の目的に従い、大学の運営方針に寄り添って協力し、同窓生の心のよりどころとして前進していきたいと考えています。

理 念

- 会員相互の触れ合いを大切にして、**親睦を深める。**
- 学び合い、語り合う場を設定し、**互いに教養を高める。**

重点目標

1. 会員意識の昂揚をめざし、会費納入の徹底を図る。
2. 支会活動の活性化をめざす。
3. 同期同窓会の組織運営を強化する。
4. 大学の発展に思いを致し協力する。

教員養成改革の新たな局面

学長 長 友 恒 人

同窓会会員の皆様、奈良教育大学への物心両面にわたる日頃のご支援に心から感謝申し上げます。

平成24年8月に中央教育審議会から2つの重要な答申が出されたことは昨年度の「まほろば」で触れたとおりです。そのひとつ、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)」は、その後文部科学省の協力者会議でより具体的方策が検討され、昨年10月に、「大学院段階の教員養成の改革と充実等について」(報告)が公表されました。主要点は、修士課程を段階的に教職大学院(本学では専門職学位課程)に移行すること、修士課程は実践的な科目を増やすことであります。

一方、内閣の教育再生実行会議は、第一次の「いじめの問題等への対応について」から第四次まで矢継ぎ早に教育改革の提言をしました。「教育委員会制度等の在り方について」、「これからの大学教育等の在り方について」であります。教育再生実行会議の提言は必ずしもその内容通りに実行されるものではありませんが、将来の教育全般に及ぶ方向を強く示唆するものであります。

教員の養成・研修を含めて教育全般に及ぶドラスティックな「改革」が求められるめまぐるしい動向のなかであって、「幅広い知識と教養」「探求心と創造性」「豊かな感性と健やかな身体」「自立と他者を思い遣る心」「個の確立と社会性の涵養」等々、人によって使う言葉は多少違っても、このようなことをこども達がおとな社会に入るまでに身につけるように導くことが教育における「不易」であろうと考えます。

そして、今必要とされる「流行」は何か？ 江戸が明治に変わってもうすぐ150年、第二次大戦が終わって70年が経過しました。20世紀まで日本は「豊かさ」を求め、いわゆる「先進国」の仲間入りを果たしました。いわゆる「途上国」がかつての日本がそうであったように「豊かさ」を求めるのは当然のことです。一説によれば、地球の資源が養うことができる人口は100億人だと言われます。「豊かさ」特に「精神的な豊かさ」を維持するために、教育に求められることは何だろうか、と考えます。

今年は、日本が、2002年に国際連合の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」(ヨハネスブルグ・サミット)において提案し、2005年から国連が実施してきた「国連持続可能な発展のための教育の10年:DESD(Decade of Education for Sustainable Development)」の最終年であり、岡山市と愛知県・名古屋市で世界規模の行事や閣僚級会議が予定されています。「持続可能な発展のための教育:ESD」を簡単に言えば、「自然を破壊することなく平和を維持して、私たちが享受してきた物質的、文化的、精神的な豊かさを子々孫々まで継続するために必要な教育」です。日本では、パリにあるユネスコ本部が認定するユネスコスクール(現在、世界で9,000余校、日本で700余校)を中心に「持続可能な発展のための教育:ESD」の実践に取り組んでいます。本学は、大学として日本で最初にユネスコスクールとして認定され(2007年)、日本の拠点校のひとつとして活動を継続しています。

先述の様に教育の「流行」については、「改革」がいろいろと提言され、教育の内容と方法が変わろうとしています。教育は「持続可能な社会」の礎でなければなりません。教育委員会や学校との連携をさらに進めて、「実践」を重視して、新しい課題にも対応できる主体的な教員の養成をめざして全学を挙げて取り組んでまいります。そのなかに21世紀の持続可能な社会を実現するESDをひとつの核として実施し、未来の教師に「学び続ける心」を育てていきたいと考えます。会員の皆様のご助言、アドバイスをお願いいたします。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝と同窓会のご発展を祈念し、母校のために物心両面からのご支援とご指導を今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成25年度 奈良教育大学同窓会一般会計決算書

(平成25年4月1日～
平成26年3月31日)

25年度の会計決算は下記のとおりです。

(歳入の部)

単位：円

款	項	本年度予算額 (A)	本年度収入額 (B)	比較増減額 (B-A)	備 考
会 費		4,310,000	4,134,380	△175,620	
	1 通常会費	3,810,000	3,664,380	△145,620	$1,880 \times 854 = 1,605,520$ $4,000 \times 1 = 4,000$ $1,920 \times 355 = 681,600$ $4,880 \times 12 = 58,560$ $2,000 \times 357 = 714,000$ $4,920 \times 6 = 29,520$ $2,420 \times 3 = 7,260$ $5,000 \times 8 = 40,000$ $2,880 \times 75 = 216,000$ $5,880 \times 1 = 5,880$ $2,920 \times 30 = 87,600$ $9,280 \times 5 = 46,400$ $3,000 \times 24 = 72,000$ $9,880 \times 3 = 29,640$ $3,880 \times 2 = 7,760$ $9,920 \times 2 = 19,840$ $3,920 \times 1 = 3,920$ $10,000 \times 2 = 20,000$ $14,880 \times 1 = 14,880$
	2 入会金	300,000	264,000	△36,000	$2,000 \times 132 = 264,000$
	3 臨時会費	200,000	206,000	6,000	$2,000 \times 103 = 206,000$
寄 付 金	寄付金及び広告料	0	10,062	10,062	寄付金等
繰 越 金	前年度繰越金	325,767	325,767	0	
利 子	利子及び雑収入	0	12	12	貯金利子
合 計		4,635,767	4,470,221	△165,546	

(歳出の部)

単位：円

款	項	本年度予算額 (A)	本年度支出額 (B)	比較増減額 (B-A)	備 考
事 務 費		1,580,000	1,520,583	59,417	
	1 報酬	840,000	840,000	0	事務局長報酬
	2 諸手当	300,000	300,000	0	交通費、諸手当
	3 役員旅費	300,000	284,220	15,780	役員会旅費等
	4 備品費	50,000	36,150	13,850	コンピュータ周辺機器
	5 消耗品費	30,000	24,628	5,372	印刷用紙他
	6 通信費	60,000	35,585	24,415	切手、はがき等
会 議 費		470,000	349,841	120,159	
	1 役員会費	40,000	13,691	26,309	役員会、理事会、評議員会、委員会等
	2 総会費	430,000	336,150	93,850	放送操作、懇親会等
事 業 費		2,560,000	2,311,774	248,226	
	1 会報発行費	2,200,000	2,062,701	137,299	会報「まほろば」26号
	2 会員慶弔費	30,000	14,922	15,078	
	3 新会員歓迎費	100,000	76,000	24,000	入会歓迎会費、記念品(筒)、袋
	4 事業活動費	200,000	158,151	41,849	一日親睦見学会
	5 事業基金	30,000	0	30,000	
予 備 費		25,767	20,840	4,927	
	予備費	25,767	20,840	4,927	
合 計		4,635,767	4,203,038	432,729	

差引現在高 4,470,221 - 4,203,038 = 267,183円(次年度へ繰り越す)

会費納入についてお願い

同窓会の年会費は一口1,000円、2口以上です。下記の何れかの方法で納入して下さるようお願いいたします。

1. 直接現金。
2. 同封の振替用紙をご使用ください。
(振替先は00900-2-9400です。できればATMを利用してください。)
3. ゆうちょの貯金口座を持っている方は通帳やカードを使って手数料無料で送金できます。

監査報告

平成25年度の会計決算を詳細に、監査いたしましたところ、諸帳簿等は、よく整備され、正確適正に処理されていたことを認めます。

平成26年4月7日

会計監査 伊東 和彦 印

山田 恵敏 印

平成25年度 会務報告

25年4月3日 大学入学式。西田会長・東出副会長・松村副会長・中谷副会長出席。教育学部274名。学部全てが学校教育教員養成課程。(教育発達専攻・教科教育専攻・伝統文化教育専攻の三コース)・大学院65名(修士課程47名・専門職学位課程18名)・特別支援教育特別専攻科11名 合計350名 34都道府県から入学生。

25年4月5日 会計監査委員会。峯田孝治・山田恵敏氏 西田会長立会いのもと会計監査を受ける。

25年4月9日 本学会開催。西田会長より26年度入学生から終身会費制を提案いただく。会則改正にもつながるので慎重に審議する。続いて平成24年度会務報告・決算書・平成25年度活動方針案・予算書等の審議をする。

25年4月20日 大阪市興東会総会。西田会長・長友学長・杉本事務局長出席。大阪市内の小学校校長・教頭をきちんと把握した一覧表を作成しておられるのに感心した。小学校教員だけで組織する会なのに、各部委員会活動も活発に機能している。総会も淡々と進められ24年度の事業報告はじめ役員選出もスムーズに決定した。25年度も審議され議決した。その後の懇親会も和やかな雰囲気、団結の強さと一人一人の力を発揮できる態勢も整っている。チームワークと結束力を合言葉に今後も力強く歩まれると言う思いを持ったが、後継者の問題もあるようである。

25年4月26日 理事会・評議員会開催。学長から、昨年度から全て学校教育教員養成課程の入学者とし、教員養成の高度化に取り組む。現場で即役立つ教員養成に取り組む大学の教育方針を述べる。会費納入の改革をして一年目、納入者が1,823名。同窓会運営が困難になってきたので、入学時に終身制の同窓会会費を納入していただく会則改正を提案する。満場一致とはいかなかったが承認していただく。この案を同窓会総会に提案していくことで承認していただいた。平成24年度全般にわたっての反省と平成24年度の会務報告・会計決算報告・監査報告・平成25年度の基本方針案・活動方針案・予算案・役員構成等を審議し、議決した。

25年4月28日 天理市支会総会開催。第6回目になる。歴史は浅いが、天理市福住福祉センターで盛大に開催される。西田会長・杉本事務局長出席。新しい出席者も増え、今後益々発展していく予感を感じた。竹中会長さんを中心にして先輩の荻原さんの力添えが素晴らしい。総会の持ちかたも、単に年度の反省に留まらず出席してください中から、講演をいただく新しい取り組みを始められた。講演の内容もその方の学生時代・先生時代を丁寧に、しかも意義深く語っていただく。時代背景が分かり、同窓会の意味を知る。そしていつも同窓会に心を寄せてくださっている方々の普段の取り組みがあることに感謝。そして、24年度の会費徴収をして下さる。後日、天理市の会員78名も自分たちで徴収し持参していただく。

25年5月17日 総会準備。資料綴じ。西田会長・東出副会長・7名の理事・評議員・事務局長で総会の準備をする。

25年5月18日 総会会場造り・マイク調整・花飾り等の準備を行った。会場花活け。松原副会長・岩橋理事に活け花を依頼した。

25年5月19日 平成25年度同窓会総会開催。会員110名。総会会費納入者103名。長田顧問・長友学長・加藤副学長・大久保元学長・奥田・石崎名誉教授もご出席下さった。長友学長より今年度より学校教育教員養成課程の募集。その取り組みを詳細にわたっての説明がある。

総会は、超高齢者の方々の出席で成り立っているといっても過言ではないが、本当にありがたいことである。昭和20年女子師範卒10名の出席者をはじめ110名も出席いただき盛大に開催することが出来た。提案された、同窓会費を新入生からいただく終身会費制については、継続審議になりかけたけど、会長提案を撤回するということになった。だから会則改正も取り下げることになった。会務報告・決算報告・活動方針案・予算書も満場一致で採択していただきすべて承認された。

アトラクションは、まずはじめに、特別出演として、バイオリン独奏 中村義周氏の演奏。続いてピアノの弾き語りを中岡清風氏の素晴らしい歌声とピアノに圧倒された。

奈良教育大学楽桜会混声合唱団が、同窓会総会に相応しく郷愁を誘う「いい日旅立ち」「雨降りお月さん」「鞠と殿様」を披露して下さい。会員の皆様方も子ども時代を思い出しきっと心で歌っておられたと思う。そして、「ふるさと」をみんなで合唱した。なんだか涙があふれてきてその処理に困った。会員同士で作りに上げたアトラクションを演出でき、出席者皆様方に喜んでもらえた。その後、一緒に会食を楽しんだ。一層懇親会が盛り上がり和やかな声が会場に溢れた。

やっぱり参加してよかった。もっと友人を多数連れて参加しよう。年齢を超えて懇談できるのが嬉しいし、また今年も出席できることが何より嬉しいし、来年もまた参加できるよう精進していこうとの声に励まされ、まだまだ名残惜しい感じがしたが、午後2時30分散会した。

25年5月25日 生駒市支会総会開催。松村副会長・杉本事務局長出席。アイ・アイ・ランドで開催。出席される方々が年々少なくなってきたのが中身の濃い総会だった。

25年5月29日 広報委員会開催。会報「まほろば」26号発刊に向けての編集会議をした。

25年5月28日 同窓会ホームページ更新。西田会長に依頼する。

25年6月7日 広報委員会開催。まほろば26号初校。

25年6月14日 広報委員会開催。まほろば26号2校。

25年6月17日 まほろば26号最終確認。

25年6月23日 まほろば26号発行。発送準備にとりかかる。住所確認者13,888名に発送。302部返却。今年は、住所確認を(二部送っていた可能性のある方々)きちんと整理した。それでも、住所変更届をして下さらない方が多く、会員そのものは確実に増えているのに、住所未確認同窓生が多くいる。

25年9月24日 本部会開催。総会以後のさまざまな報告。理事会・評議員会に向けての案件の整理と一日親睦見学会への参加者のお誘いをどうするか審議する。一日親睦見学会は、中谷副会長さんのご努力が力強い。

25年9月30日 中間卒業・修了式。7名の内5名の入会者があった。

25年10月5日 東大阪市支会総会開催。西田会長・杉本事務局長出席。二年ぶりに総会が開催され、再会する方々は話がはずみ、懇親会は非常に盛り上がった。一昨年若い人達が参加していたのに、今回は少なかったのも、来年こそ、たくさん若い人達が参加してくれるよう取り組むことになった。

25年10月29日 理事会・評議員会開催。28名の出席。長友学長より大学の現状の報告をしていただく。総会以後の詳しい報告と一日親睦見学会への参加を呼びかけていただきたいと研修委員さんからも訴えていただく。そして、詳しい日程を懇切丁寧に説明された。

25年11月16日 一日親睦見学会開催。第13回一日親睦見学会に出席者が26名。バスが程よい客席を占める事になった。前日の雨から一転した秋晴れの小春日和に恵まれ東吉野村(句碑・歌碑めぐり)に出発した。天好園の元女将さんの新子さん(S.20年卒)も食事に出席され27名になった。

紅葉の真っ盛りの東吉野村の風景を満悦した。少しハプニングがあって心配したこともあった。

25年11月17日 第29回 大阪市興東会退職校長会総会開催。杉本事務局長・長友学長出席。退職された前校長・元校長24名と現職校長7名が出席されて盛大に開催された。第一部は総会、第二部は懇親会。

25年11月30日 磯城郡支会総会開催。杉本事務局長出席。中村理事・松村評議員・吉村評議員さん方のご努力で開催された。ベテランの方々の出席で出席者は少ないが中身の濃い総会を持つことが出来た。ただ、磯城郡の先生方の管理職が少なく、若い先生方は居られるが、今後の運営に支障をきたす事があるという懸念を話され少し課題が残った。懇親会は和やかな雰囲気です。会員相互の親睦がはかられた。

25年12月1日 大和郡山市支会総会開催。柳澤副学長・杉本事務局長出席。大和郡山市総会は、いつも格調高く、今年も同窓会顧問の長田光男氏が、北郡山・植槻町界隈を解説して下さった。条里制施行の頃、岩槻の地名・奈良時代の北郡山地域・外堀の巡る町を丁寧に解説講演していただく研修会を開催した。資料等もつけていただき、感心させられることばかりでその博識ぶりに驚いた。その後、和気あいあいとした雰囲気です。親しく懇親された。

25年12月7日 奈良市支会総会開催。伊藤副学長・西田会長・松村副会長・長田顧問・伊東監事・中川理事・中尾評議員・杉本事務局長出席。伊藤副学長より、母校の現状と今後について丁寧に報告して下さった。40名以上の出席をと下住明治小学校長の献身的な奮闘も叶わなかったが、出席者の顔ぶれも新しい方が多く、来年こそ、念願の40名を越えそうな勢いを感じた。10名の現職管理職が出席されているので力強さを感じた。管

理職でない先生方の出席を呼びかければもっと盛大な会になるのではないかと感じた。役員選出もスムーズに行われた。来年こそ、一人二人以上の出席者を誘うことで、40名以上の出席者で盛大な会になるよう努力して行こうと話合われた。奈良市支会が、しっかりしてこそ同窓会の活性化につながるという思いは同じであることが確認できた。

25年12月21日 理事・評議員年忘れ研修会開催。長友学長・柳澤前学長・長田顧問はじめ会長・副会長・監事・理事・評議員25名が出席。打ち解けた雰囲気の中で、本音で今後の同窓会のあり方や如何に同窓会に若い方々の心向けさせる取り組みをしていけば良いかと真剣に話合われた。出席者一同心打ち解け、同窓会発展に寄与していくことを確認しあえた。

26年1月7日 大阪市興東会新春総会開催。杉本事務局長出席。アウィーナ大阪において、現職、非現職30名以上の出席者で、先輩後輩の連携がとて密で同窓生意識も高く深いことに感動した。卒年が違う出席者の層の厚さにも感心した。

26年2月20日 大阪市奈良教育大学同窓会開催。西田会長・杉本事務局長出席。大阪市に在籍する若い幼稚園・小学校・中学校代表の先生方が約60名近く参集され和気あいあいと歓談され親睦を深められた。校長先生方が積極的に世話される姿が微笑ましかった。今年も、八尾市や東大阪市にも呼びかけられて盛大に開催された。

26年2月26日 拡大委員会開催。本部会を開催して平成25年度の総会を迎えるところ、東出副会長・中谷副会長さんが入院されているとのこと。で拡大委員会を開催した。長田顧問・西田会長・松村副会長・松原副会長・各部委員長で審議した。来年度の役員候補者を選定するところで難航する。西田会長の辞任の意思が強く、会長が決定しない。会費納入についても1,742名では会そのものの運営が成り立たなくなっている。そこで、継続審議することで落ち着く。次回を、3月19日に開催する。

26年3月19日 慎重に審議を重ねるが結論得ず。次回4月3日に、臨時理事会を開催して、現状を把握していただき、よき解決策を模索することで一致する。

26年3月25日 卒業・修了式。学部生249名。院生81名。特別支援教育特別専攻科10名。合計340名。西田会長・松村副会長式典に参列された。松原副会長・理事12名・評議員4名が入会手続きをした。新会員に132名。平成25年度会費納入が101名。昨年に比べると70名近く入会者が減少し、やりがいのない仕事であった。奈良教育大学を卒業・修了したことに自信と誇りを持ち、同窓会にも積極的に入会しようと思ってもらうにはどうすればいいのか。悩むところである。入会率が38%では。

大学の先生4名の応援をしていただいたが結果が思わしくなく申し訳ない気もしています。

同窓会は、同窓とか・絆とか・仲間を大事とか、人間が生きていくうえで大切なことなのに、今の風潮なのか、学生の気質が変わったのか、教育の問題なのか。入学時に同窓会会費を徴収するしかないのか？

同窓会だより

(1) 同窓会総会参加記

昭和29年卒 郡 珖三

5年前、病に倒れてから、ご無沙汰してきたが、お陰様で復調してきたし、先輩や仲間のお勧め・お誘いもあって、久しぶりに参加することにした。

まずは、過去の「会報まほろば」や「総会資料」を取り出し、読み返して、現況を把握した。研修旅行や懇親会でのスナップ写真を見つめては、思いに浸った。

次に、「昭和29年卒文甲会」の記録を見直して、同級生の動向を確かめた。さらには、学芸大学在学中の活動記—謡曲や書芸部での活動、国語国文会や教育実習記、そして、教職現場での記録、等々。なつかしい感動に耽り、鬼籍に入った方々の写真には、思わず合唱し、改めて、感謝とお礼のご挨拶、「その節は、お世話になりました」と。

以上のように、往時を偲び、改めて感謝の思いを強くして、なつかしい校門をくぐり、山田ホールへ向かった。

受付・会場に入るなり、「やーやー。おーおー」の声と拍手。お互いの健康を確かめ、喜び合い、予想以上の感動である。

そして、総会。会長様はじめ役員の挨拶や報告・提案などに耳を傾け、拍手を送る。議事の審議は、必ずしも「そうかい・そうかい」という異議

なし審議ではなかったが、それだけに前向きで具体的な提言・発言に聞き入った。さわやかであった。

次いでお楽しみがアトラクションである。「ピアノ弾き語り」と「混声合唱」のすばらしい演技・演奏に感銘。拍手が鳴り止まなかった。

そして、懇親会。大いに賑わい、盛り上がった。談論風発。懐旧の思いに浸り、楽しいひととき、尽きること知らずの飲み食い会。大満足した。

企画・運営・後始末などのご奉仕、会員皆様のご厚志に厚く厚く御礼申し上げて、参加記とします。ありがとうございました。



(2) 同期会(昭和35年卒奈良学芸大学一部甲類) 昭和35年卒 田中 貢

平成25年6月16日(日)「橿原観光ホテル」にて同窓会を行いました。

今回は吉野郡出身のメンバー4人(射場博一・今西政弘・田中貢・藤田保)が幹事となり計画しました。どんな会にしようかといろいろ考えた末、今までと少し違うことを入れたらということで、「吉野大峯奥駆道」が2004年に世界遺産に登録されたということもあり、歴史ある吉野を宣伝しようということになりました。

少し横道にそれますが、昭和30年初めごろ(私達が学生だったころ)は今よりは気温も低く、特に吉野は奈良市に比べて4～5度低かったんじゃないかと思います。その頃の吉野は冬には3～4回雪が降りました。吉野から通学していた私達は10～15センチ積もった道を長靴を

履いて駅まで歩き電車に乗りました。奈良駅に着くと雪など全くなくて、よい天気なのに、アスファルトの道を長靴を履いて歩くのは、あまり見られた格好ではありませんでした。そんなことからか吉野の山猿と言われていたようです。今更名誉挽回ではありませんが、そんな吉野について知ってもらいたい機会だということになりました。そこで、射場君が高等学校で長い年月歴史を教えていて、退職後も吉野の歴史について各地で講演をしているのを聞いていましたので、同窓会の最初に吉野の世界遺産について話してもらおうということになりました。「世界遺産…吉野大峰祈りの道」という表題で講演の時間を40分ぐらいとりました。2時間ぐらいでする話を40分ではあまりにも短すぎましたが、

後の会食の中で話題となりなかなかの好評でした。

今回は21人の出席者で遠方の山口県から来られた方もあり、近況について話されました。みんなで懐かしい歌を歌う場面も作り、なかなか楽しいひと時を過ごしました。

2年後は80歳に近い年齢になりますが、お互いに元気でお会いできることを楽しみにいうことで会を終わりました。



(3) 百姓記【『黄昏(たそがれ)同窓会の巻』】

昭和23年卒 井上 三夫

朝の薄暗い時、出会った人の顔もはっきりせず「彼はだれ」か判らないころを『かわたれ』と言う。対して夕刻、いよいよ暗くなりゆき、「誰か彼か」判明し難いころを『たそがれ』と言うのである。朝未だ来^{あけ}のころ、すなわち『かわたれ』のころは、これからいよいよ明るくなり陽が昇る希望があるが、たそがれ(黄昏)ともなれば、陽も沈んでますます暗くなる夜の世界に入るから侘しいものだ。

『藤沢周平』の作品に「たそがれ清兵衛」という時代小説がある。この主人公は中年になっても、うだつの上からぬ侍の話であるが、これから物語ろうとする「たそがれ同窓会」は八十路半ばの男たちの一年一度の集いに纏わる苦闘記である。

2年前の5月のことだが、師範学校予科時代の同窓会の案内状が届いて「おお、また昔仲間とあえるぞー」と喜んで開催の期日を見たら、秋も終わり「11月9日」とあった。指折って数えたら半年向こうの話ではないか。幹事の馬鹿野郎! 6ヶ月先の案内をしやがって、お互い俺らの年齢を考えてみろ一半年先の寿命はどうなっているか判らんじゃないか。もっと早く開催しろ一、と、独りで怒鳴っていたものだった。

しかし「月日は光陰の矢」だ、待ち焦がれていた同窓会が、やっと目前にまで迫った11月初め、私は『気管支炎』という病名を貰って急遽入院の止む無きに至り、同窓会欠席の羽目になってしまったのである。

昨年は奈良市の連中が世話役となって猿沢池の辺の料亭で開いて呉れ、私は二年分の美酒を飲んでやろうと喜々として赴き、20数名の同期の桜たちと旧交を温めることが出来た。そして次回は『郡山』が幹事役を仰せつかって閉会と相成ったのだった。

いよいよ今年に入って私たち郡山組(こおりやま在住者)が企画推進する段になって吉本廣治君が突如入院して、大倉君と2人で5月から「いつ・どこで・どんな風に」と、《とやあらんかくやあらんと》行動を開始したのであった。

大倉君が「同窓会の期日は『9月3日』にしよう。この日は君の誕生日だぞ」突飛な提案をする。私は少々どぎまぎしたが、「ようし、面白い! それに決めたー。が、女性の居ないのが一寸もの寂しい気もするが」と首を傾げる。

今の時代に、男女別々に同窓会を開いている学校なんかありゃしない。それが現実じゃわれの場合にあるのである。

戦時中の師範学校には各府県に男子師範学校と女子師範学校が別々にあり、戦争が終わって両者が合併し、いわゆる男女共学が始まったのだった。

私たちは、15歳から17歳頃の青年期をそれぞれ師範学校予科時代として過ごし、戦時中は、農場奉仕、学徒動員(工場勤務)寄宿舎生活、工場寮生活等々、まさに過酷な戦時体制一色の学生生活であった。寝食を共にして戦時の呻吟に耐えてきた仲間の「集い」ゆえに師範学校時代、後の教育大学同窓会とは別に『予科同窓会』なるものを開いてきたのである。多分、女子連中の現況や心境もかくやと想像する。

「僕の誕生日に予科同窓会を開くのであれば、女性軍にも呼びかけては如何」と図にのって大倉君に言えば、彼、曰く「この年齢だ、もはや色気事は不要、不要」と一笑、話にならなかった。

最初は郡山の料亭をと考えたが、八十路半ばのご老体、16歳からの裸の付き合い、ゆっくり温泉に入ってからのお宴も乙なことよと、『信貴山観光ホテル』と決めて交渉も終えた。

「案内文の起草は君が書け。後の仕事、つまり名簿原稿作成、葉書印刷・発送、受信一切は僕がやる」と大倉君が取り掛かって呉れた。それからというもの、彼は細々とした事務・雑務に日々、労を費やし何かと報告してきて呉れた。

9月開催、7月末、返信締め切りの段に及んで、彼からの報告と電話相談は毎日、毎日の日課のように掛かってくるのであった。

住所不詳の人には徹底的に追跡調査したり、返信応答のない人へは電話でもって催促したり、参加を思案している人には私からも促しを求めたりして独りでも多くの出席者を得るような念の入った幹事の大役を敢行していつて呉れたのだった。

「父は病院に入っておりまして多少の『認知症』も進んでおりますので」という娘さんからの返信に、ああ、あいつまでもか、まさかと寂しさと侘しさが胸に絡むのである。また、仲間の家族から

「父は今年亡くなりまして父に代わり残念無念を申し上げます」の電話には「こちらは無念さが倍増してくるのだ」と言う大倉君の話に、私もただだ『嗚呼無情』と一人ごちるのだった。

欠席の返事、不参加の弁明など承ると、

§『たそがれて人それぞれの色模様』

と詠んでみたり、

§『たそがれて友それぞれの死に支度』

と儚く詠み替えてみたりするのであった。

これも同年配の女性のことだが、ご主人を亡くして独り身の人が多くなってきた。先般も、親しかった同窓の女性と久しぶりに会って、話しているうちに彼女が旦那を亡くしていることを知った。そこで、

「君も『バック・ハウス』になってるのか」と冗談を申し、どう言う意味かと聞かれたので、「バックは『後ろ』、ハウスは『家』、、、つまり『後家さん』」だと解説し大笑いしたことがあった。

こんな失礼で馬鹿馬鹿しい呼び名を言えるのも、私も『男寡婦』だからだが、扁額を掲げて8年の独り旅を続けている。同じ幹事役の大倉君もまた、男寡婦になって6年も経っている。言わばこの『たそがれ同窓会』は2人の男寡婦が、食いしばって大役を引き受けている訳だ。

同窓の男仲間には『八十路』に入っても仲良し夫婦善哉を歌い続けている人もまだまだ多くいることは誠に喜ばしいことだが、私の亡妻の葬に参列してくれた同窓の仲間の中に、

「男は妻に先立たれると、直ぐ追うように逝き

よると言う。井上も先が危ない」と、親しみを込めて話していたような。

しからば『痩せ我慢でもいい、根性逞しく生きねばならぬ』の『独り旅』を続けて今日に至っている。親友、大倉君もまたかくの如き意気込みなり。

だから、少々、体調がおかしくっても、同窓会へ参加する気分が不十分でも、一度、出席をパスするともういけない、人間って道草をする何事にも打算が生じ、気力が半減して行くものだ。

大倉君と私は「あまりしつこく参加の催促はしないでいこう」と躊躇したり、「いやいや嫌われても同窓会の継続のためにも、参加をためらう仲間に繰り返し呼びかけをしていこう」と前向きになったりしながら今日を迎えている次第である。

§『道草も待ったなし刻流る』 (山風)

§『恍惚の友へ我が身の明日案じ』 (山風)

そんな句を詠んで『たそがれ仲間』のことに思いを馳せた。

今年の暑さはとりわけ厳しいと言う。しからば昔の人は夏をどう越してきたのかと、『俳諧歳時記』をひも解いてみた。

§『石も樹も眼に光る暑さかな』

§『わが宿は下手の建てたる暑さかな』

§『肌かくす女の罪の暑さかな』

§『息の根の止まることある暑さかな』

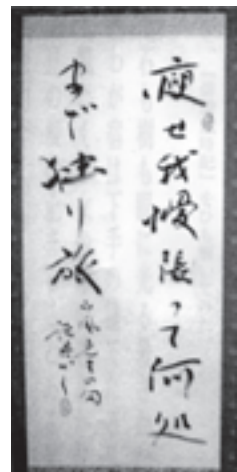
§『念力のゆるめば死ぬる大暑かな』

§『暑き日の石掘伝ひ頭(づ)を下げて』

§『蝸牛の葉裏へ回る暑さかな』

なるほど、夏は江戸の昔も暑かったんだ、皆んな辛抱してきやあったんや一。

同窓の仲間たちよ「年寄り連中よ」頑張って8月を越しなはれや。『黄昏同窓会』はすぐそこに一。9月早々に会いましょう。



《日展審査員『中川浩裕』氏(教え子)が、小生の句を揮毫し、送って呉れた》

研修会だより

句碑・歌碑を訪ねて

(1) 東吉野への研修会

本会顧問 長田 光男

平成25年11月16日、前日とは一転して爽やかな快晴となった。研修委員のお世話で一日親睦研修会。今回のテーマは「東吉野村の句碑・歌碑めぐり」。参加者25名がバスで出発した。

私はこれとは別のテーマもあると考えていた。この村にはいくつもの顔がある。「名瀑」・「名水」・「天誅組史跡」など。「句碑・歌碑」も有名だが、この年は天誅組義挙150周年に当たり、その史跡を巡るのもふさわしい。事実、私は5月と10月に歴史探訪の会を案内してこの地を訪れた。10月27日には小川（鷲家口）の法泉寺で慰霊の大法要が営まれ、各所の史跡も全国からの参詣者で溢れていた。

さて、私たちのバスは宇陀の「道の駅」で小休止後、一路東吉野を目指した。途中で東吉野村企画課の上辻元治氏が同乗され、ガイドをして下さった。私とは何度も出会った馴染みの方である。天誅組の説明も入れて下さって幸いであった。

小川（鷲家口）を過ぎ、高見川沿いに遡り、やがて左手の高所にある石鼎庵の辺りに来た。上辻氏は右手に聳える山を指し、「吉村寅太郎・藤本鉄石・松本奎堂ら三総裁の一行が川上村からあの尾根伝いにやって来てこの辺りに下り立ったのです」と話された。時間の都合で石鼎庵へは立ち寄れなかったが、東吉野に魅せられてここに住み生涯を送った俳人原石鼎の遺跡である。明治19年（1886）島根県の開業医の家に生まれたが、医者之道よりも次第に俳句や短歌に傾倒し、高浜虚子に師事して、やがて「鹿火屋」を発行・主宰し、以後も「石鼎句集」「花影」なども出版した。「谷杉の紺折り畳む霞かな」や「腰元に斧照る杣の午睡かな」など、東吉野の自然や林業に生きる杣人達を詠むのを生涯のテーマとした。昭和26年（1951）65歳で没し、隣りの天照寺に遺言によって分骨された。高浜虚子は「イツマデモヨシノノハナノキミヲエガク」との追悼句を電送したという。「かなしさはひともしころの雪山家」―前庭に彼の句碑が郷里の方に向けて建てられている。今も多くのファンを魅了する里である。

近くの丹生川上神社中社で境内を見学する。透き通る清らかな川面に映える紅葉は目にしみるようだ。罔象女神（みずはのめのかみ）という水神を祀る松皮茸・流造の本殿、重要文化財の石燈籠、孝明天皇に「日本一の石工」と賞せられた丹波佐吉作の獅子・狛犬、天然記念物のツルマンリョウ、そして目指す歌碑「東の瀧もとどろに夢の回溯 蟻通ひめす丹生川上」（森口奈良麿）など、時間をかけて鑑賞したい佳境である。

バスは小川へと戻り、天誅組的那須信吾ら6名の決死隊が突入し激戦となった彦根播本陣跡の「いかり屋」前で上辻氏から説明を受けた。そこから少し北の高見川と鷲家川の合流点に架かる千代橋。ここでも決死隊の穴戸弥四郎が彦根藩士らと戦って討死している。さらに北上して鷲家へ。藤堂藩の銃撃で倒された総裁吉村寅太郎の原瘞処を通る。道端に「天誅組終焉之地」と刻む大石碑が建つ。「尊皇・倒幕」を旗印にして戦った志士達も幕府の追討軍の前に40日余りで遂に潰滅した。

この日の最終目的地平野へと、バスは高見川沿いの紅葉に染まりながら、漸く「たかすみ温泉鄙の里」の「天好園」に到着した。既に正午をとくに過ぎている。山深い溪谷の一角にすばらしい紅葉に包まれて、広い庭園のあちこちに句碑が建つ。それだけでも「来てよかった！」と思わずつぶやいた。

総松造りの大広間で、会長の音頭で乾杯。この宿自慢の美食に舌鼓を打ちながら歓談に盛り上がった。

食後、庭に出て句碑巡りである。「日のあたる色となりゆく山ざくら」（鷹羽狩行）、「大空のうつろよぎりし蜚かな」（阿波野青畝）など、名句碑が10基もある。めいめい好きな句碑を味わって、午後3時帰途についた。山里深い紅葉に染まりながら、名句に学ぶ旅は終わった。

あとになったが、この研修会を企画し推進して下さった副会長の中谷要氏と委員の方々に心からお礼を申し上げる。

(2) 一日親睦研修会に参加して

昭和35年卒 小泉はまこ

6月にいただいた“まほろば”一日親睦研修会の案内を拝見し、これは是非とも参加させていただきたいと心待ちにしておりました。それは、初めて赴任した懐かしい東吉野であったからです。

11月16日は、雲ひとつない澄みきった青空で、爽やかな朝を迎えました。バスは、奈良を出発し天理、八木、大宇陀、そして東吉野を目指してすすみました。車窓からは美しく色づいた木々を眺めたり、バスの中ではあちらこちらで談笑されている声に耳を傾けたりして楽しく過ごしました。途中、道案内して下さる方が乗車され、バスの中は一段と活気づきました。

この東吉野は、維新の魁となった天誅組の終焉の地であり、また、原石鼎をはじめ多くの俳人の句碑が点在している所です。鷺家、鷺家谷、鷺家口とバスが進む中、天誅義士の戦死された場所や天誅義士の記念碑、そしてたくさんの歌人の句碑などを説明して下さいました。配布していただいたパンフレット等とにらめっこしながら説明して下さいるお話に耳を傾けました。それにしても、このような歴史や文化に富んだ所で3年間も勤めさせていただけたことに誇りを感じながら、また反面、もっと食欲に尋ね歩く余裕をもたなかったことが悔やまれました。

バスは、高見川の清流を右に、左には崖が迫りくるような山道をぬって丹生川上神社に向かいました。神社は、うっ蒼とした山をバックに一段と色鮮やかで重厚な社でした。神社のすぐそばに、原石鼎の句碑があるので近くで見ることができました。石鼎は、現在の出雲市の出身であるが東吉野に魅せられ、大

自然の中で俳句と共に生き、数々の名句を残されました。

時間もお昼に近くなったので、バスは来た道に戻り平野へと向かいました。たかすみ温泉・天好園に到着です。一万坪の広い庭園に今が最高に美しい紅葉の木々を眺めながら歩き、昼食の会場に到着しました。

静かなたたずまいで、入り口では、若おかみが私共ひとりひとりに笑顔いっぱいであげて下さいました。通された大広間で天井を見上げると太い丸太がふんだんに使われていてさすが材木の里だと思いました。

いよいよ楽しい会食です。次から次へと運んで下さる地産の食材を生かした料理の数々。鯉の洗い、今泳いでいたばかりの鯉を料理して下さいるので歯応え抜群。イワナの塩焼き、露のとうの佃煮等々、この地ならではの山の味に堪能しました。

食後は、庭園を散策し句碑をめぐったり、入浴したりとめいめいゆったりとしたひとときを過ごしました。

いよいよ帰る時刻となりました。記念に庭園で集合写真を撮っていただき、バスへと向かいました。

今回の東吉野を尋ねての研修は、私にとりましては、赴任した当時に懐かしく忍ばせていただくことができた心に残る旅でした。

お世話下さいました役員の皆さま、道案内して下さいました方、また狭く曲がりくねった道を安全に運転して下さいました女性の運転手さん、そして心温まるおもてなしをして下さいました天好園の皆さま、本当にありがとうございました。

第14回 公開文化講演会のご案内

第14回講演会は、奈良教育大学小学校教員養成課程心理学専攻を卒業され、現在奈良教育大学教授をされている豊田弘司先生の講演を予定しています。

先生は関西の小・中学校や教育関係機関から講演要請を受けられ、わかりやすい解説が好評で再度、要請を受けられることも度々あると聞いています。

記

- | | | | |
|-----|--|-----|--------------|
| ■日時 | 平成26年11月15日(土) 午後1時30分～3時 | ■会場 | 奈良教育大学 山田ホール |
| ■演題 | 心の世界 一ものをみる心— | ■講師 | 豊田弘司先生 |
| ■略歴 | ・大阪教育大学大学院教育学研究科修了
・関西心理学会会長
・日本教育心理学会常任編集委員
・学校心理士 | | |

★お誘い合わせのうえ、多数のご参加をお待ちしています。一般の方のご参加も歓迎いたします。



表紙の絵について

昭和44年卒 武田 道弘

「ひととき」

若葉が芽吹き始める頃、公園の鹿は気持ちよくゆるやかな斜面をリズムカルに歩みます。草を食んでは進み、進んでは食み、一瞬時が止まった感じさえして、ひとときさわやかな空気が流れます。

大学の寮寮は高畑の住宅地にあり、志賀直哉旧居と隣接し、時には鹿が敷地内を出入りするという風光明媚な所でした。街中からの帰路は奈良公園を気ままに散策する味わい深いもので、特に二月堂の舞台から眺める夕日は小さな雲が輝き絶景だったことを思い出します。

事務局だより

- 母校奈良教育大学は、平成24年度から定員を全て教員養成課程にし、教員養成に力を注ぐことになっています。大学は時の利を得て不況・不景気の中、教採枠は、まだ増え続けています。今年も奈良県教員採用枠は442名となっています。奈良県に就職したい学生も増えています。教員養成系大学の教員採用率は第4位です。そして今年も25都府県へ卒業生・修了生を送り出しています。ますますの健闘を祈りたい。
- 年々同窓会会費の納入率が落ちてきて二割をきりました。現在の会費納入では、通常の運営にも支障をきたしています。そこで、会則を改正し、一口1,000円、二口以上と総会で決定させていただきました。中には三口・五口を振り込んでくださる方々もおいでですが、今年も一口でも多くお願いできれば幸いです。よろしく願います。振込みの際も、窓口で振込んで頂くと手数料が130円かかります。振込んで下さる際にはA T M（自動預払機）を。もしくは現金書留・郵便局通帳から・同期同窓会幹事様・お近くの理事・評議員の方々に預けて頂いて事務局に届けて下さると幸いです。
- 会員の死去に際しては、弔電を打っていますが、知り得るのは新聞紙上や会員よりの連絡等に限られています。特に女性の方、県外の方の消息はつかみかねています。ご連絡をよろしく願います。最近、家族葬が増え、新聞に掲載されることも少なくなり、会員の死去を知ることの機会がなくなってきました。是非ご連絡をお願い致します。
- 同窓会のホームページを年々更新していますが、すでに20,000名に近い方々がホームページを開いて下さっています。感想等お寄せ下さい。
ホームアドレス・連絡先を下記に記しますので、転居・改姓・住居表示変更の場合速やかに事務局までお知らせ下さい。毎年、250～270名前後の住所未確認者が出ています。
<http://www.nara-edu.ac.jp/home-jp.htm>
奈良教育大学のホームページを開いていたいて、そこから同窓会のホームページを開くことが出来ます。その他の連絡は、下記まで願います。
- 37年卒杉本は同窓会事務局として、まる

15年間、足掛け16年間もお世話になりました。先輩諸兄・諸姉・同僚・後輩の皆様方のご支援・ご協力のお陰で無事務めさせて頂くことが出来ました。本当にありがとうございます。新しい役員さん・事務局長さんに対しても今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。

- 同窓会への連絡には、下記の方法があります。
郵便：奈良教育大学内 同窓会事務局
電話：0742-27-9105（大学総務課経由）
- 個人情報の保護には、万全を期しています。お問い合わせの内容によって不本意な回答になるかと思いますが、ご理解下さい。

編集後記

- 西田史朗会長が勇退されました。平成22年度から4年間、本会の更なる発展のために心を砕かれました。まほろば編集会議においても示唆に富むご助言を賜りました。
- 同窓会活動を長年にわたって献身的に支えてくださった杉本事務局長も退任されることになりました。広範でしかも細部にわたる事務局の仕事を積極的に遂行された氏の元気な姿が目につかびます。
- 会報「まほろば」27号は、新会長中谷要氏の言葉から始まります。魅力ある同窓会をめざしてご理解とご協力をお願いいたします。
- 表紙の絵は、武田道弘氏（昭和44年卒）にご提供いただきました。瞑想にふけた静かな奈良公園での「ひととき」の姿を想い起こさせてくれます。
- 地球規模で迫り来る最近の異常気象に十分対応できる強靱な心身を温存しながら、同窓会活動への積極的なご参加をお待ちしています。

平成26年度広報委員会委員（五十音順）

北 良夫、久保三左男、倉本政太郎
染井真由美、中村 利典、橋本 清
松原さおり

平成26年6月23日 発行
奈良教育大学同窓会会報「まほろば」第27号
—題 字 故 川淵勝男元会長—
発 行 所 奈良教育大学同窓会事務局
〒630-8301
奈良市高畑町 奈良教育大学内
☎ 0742-27-9105（総務課経由）
郵便振替番号00900-2-9400
発行兼編集 奈良教育大学同窓会広報委員会
印 刷 所 関西印刷株式会社
奈良市南半田中町19-20番地